

2020年3月期 第2四半期 決算説明資料

2019年11月12日
株式会社加藤製作所



I. 2020年3月期 第2四半期 連結決算概要

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 連結業績サマリー | P.2 |
| 2. 連結業績推移 | P.3-P.4 |
| 3. 連結損益計算書 | P.5 |
| 4. 営業利益の増減分析 | P.6 |
| 5. 連結貸借対照表 | P.7 |
| 6. 連結キャッシュ・フロー計算書 | P.8 |
| 7. 連結主要品目別売上高推移 | P.9-P.12 |
| 8. 連結仕向地別売上高推移 | P.13 |

II. 2020年3月期 連結業績予想

P.14

III. TOPICS

P.15-P.18

連結業績サマリー

- 国内売上高は、クレーン・油圧ショベルともに増加。海外売上高は、中国における販売が大幅に減少
- 工場移管作業に伴う一時的な生産効率の悪化及び工場増設に伴う減価償却費の増加により利益率は減少

(単位：百万円)

前期実績 (2019年3月期 第2四半期) 当期実績 ※¹ (2020年3月期 第2四半期) 前年同期比 () 内は増減率

売上高	42,283	➔	41,889	△393 (△0.9%)
営業利益	2,590	➔	686	△1,903 (△73.5%)
経常利益	3,076	➔	432	△2,644 (△85.9%)
親会社株主 当期純利益	2,008	➔	△51	△2,060 (-)
1株当たり 配当金 (円)	中間 47.50 期末 47.50 年間 95.00	➔	中間 15.00 期末 15.00 ※ ² 年間 30.00 ※ ²	

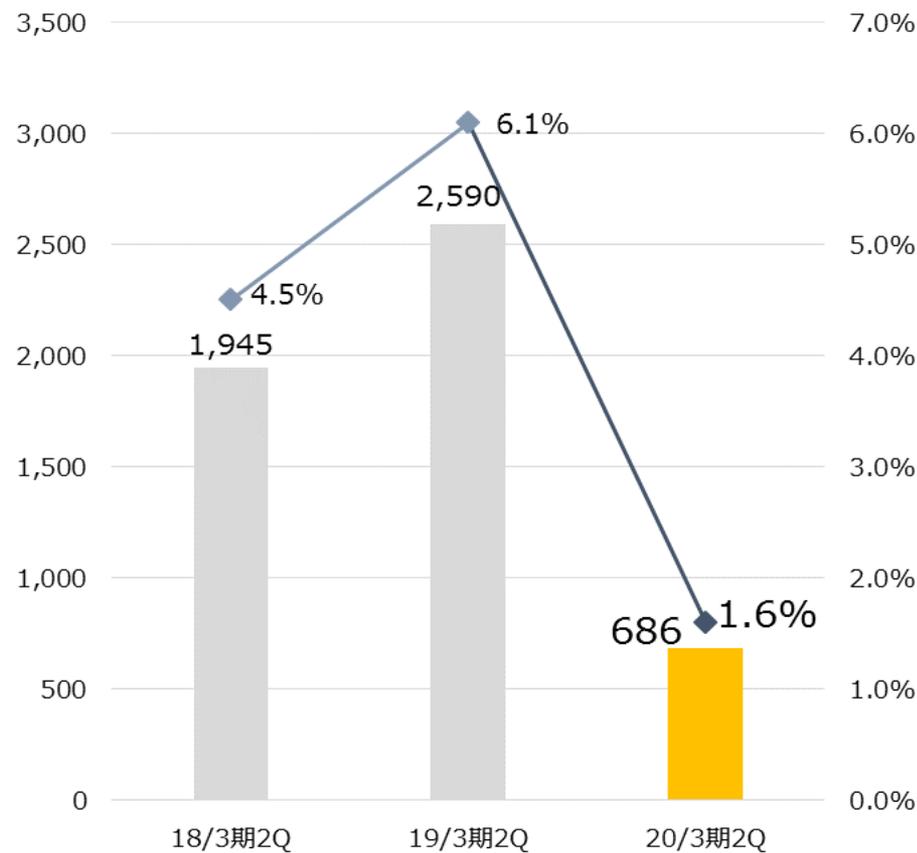
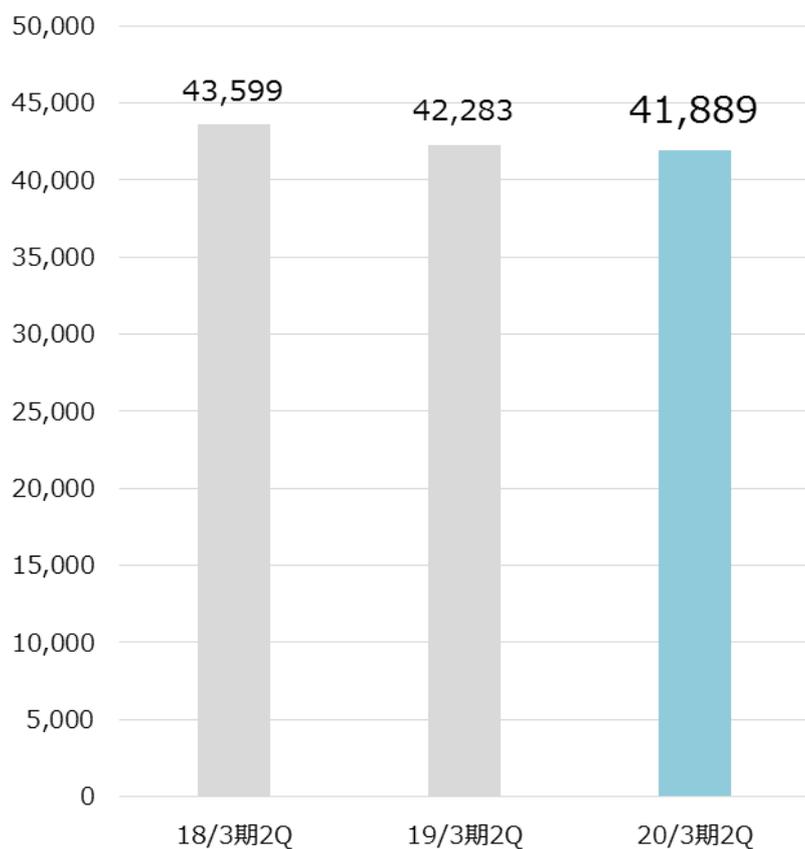
※¹ 非連結子会社であったKATO IMER S.p.A.及びKATO EUROPE B.V.は、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

※² 2020年3月期の期末・年間配当金予想額。

(単位：百万円)

売上高

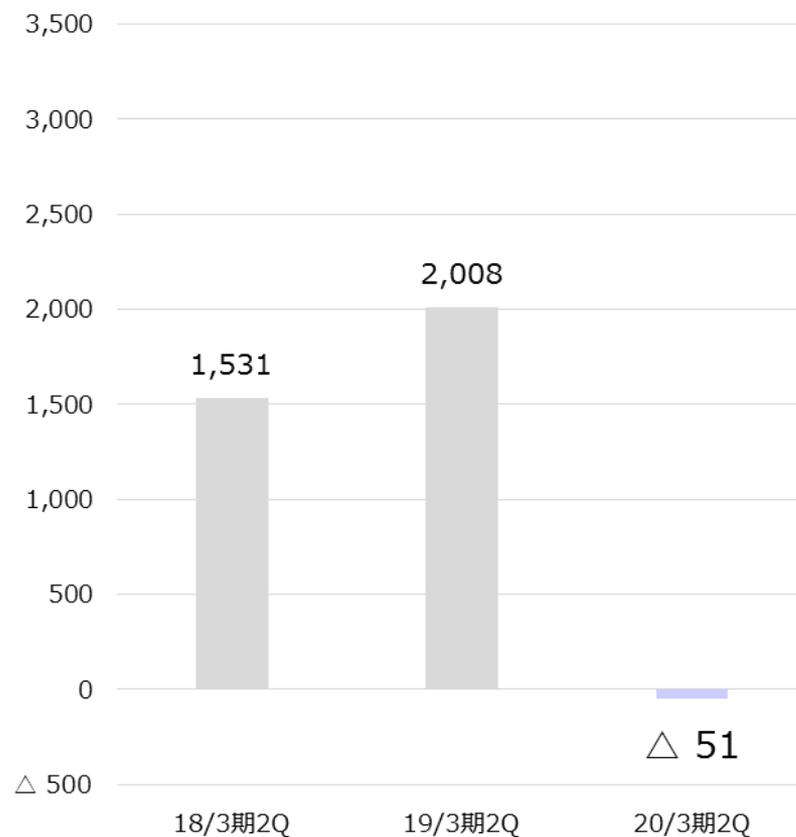
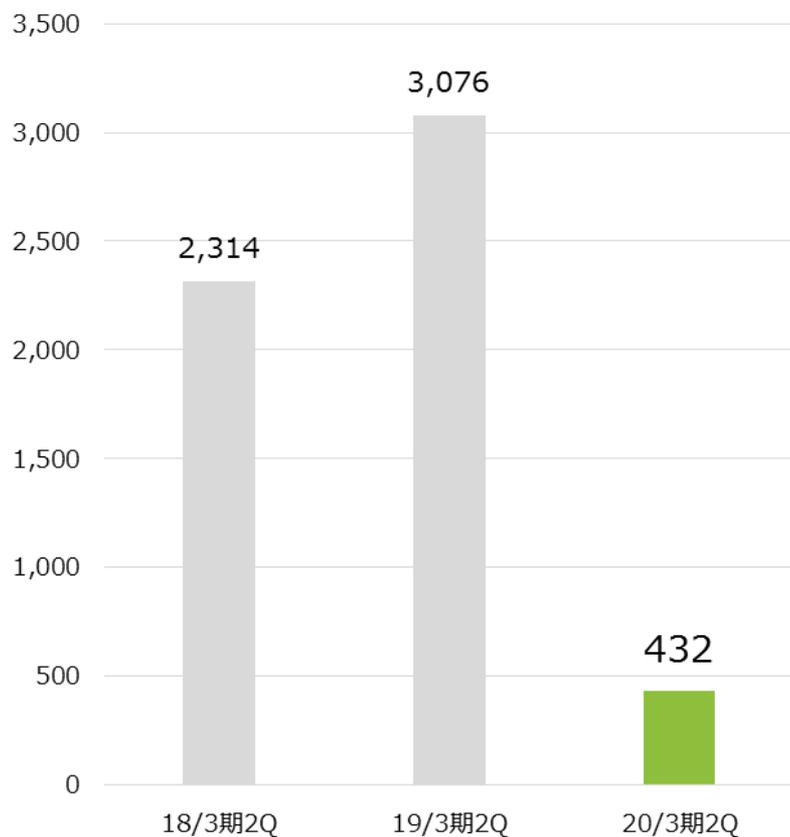
営業利益・営業利益率



(単位：百万円)

経常利益

親会社株主当期純利益



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	42,283	100.0%	41,889	100.0%	△ 393	△0.9%
売上原価	35,506	84.0%	36,416	86.9%	909	2.6%
売上総利益	6,776	16.0%	5,473	13.1%	△ 1,302	△19.2%
販管費	4,186	9.9%	4,786	11.4%	600	14.3%
営業利益	2,590	6.1%	686	1.6%	△ 1,903	△73.5%
営業外損益	486	1.2%	△ 254	△0.6%	△ 740	-
経常利益	3,076	7.3%	432	1.0%	△ 2,644	△85.9%
特別損益	170	0.4%	△ 297	△0.7%	△ 467	-
税前利益	3,246	7.7%	135	0.3%	△ 3,111	△95.8%
法人税等	1,128	2.7%	151	0.4%	△ 976	△86.6%
非支配株主当期純利益	109	0.3%	34	0.1%	△ 74	△68.3%
親会社株主当期純利益	2,008	4.8%	△ 51	△0.1%	△ 2,060	-

➤ 売上高

- 連結売上高は、前年同期比で0.9%減少
- 海外売上高比率は、前年同期33.2%から26.4%へ減少

➤ 営業外損益

- 当期の営業外収益は、281百万円（前年同期659百万円）
- 営業外費用は、為替差損336百万円を計上したため、536百万円（前年同期173百万円）

➤ 販管費

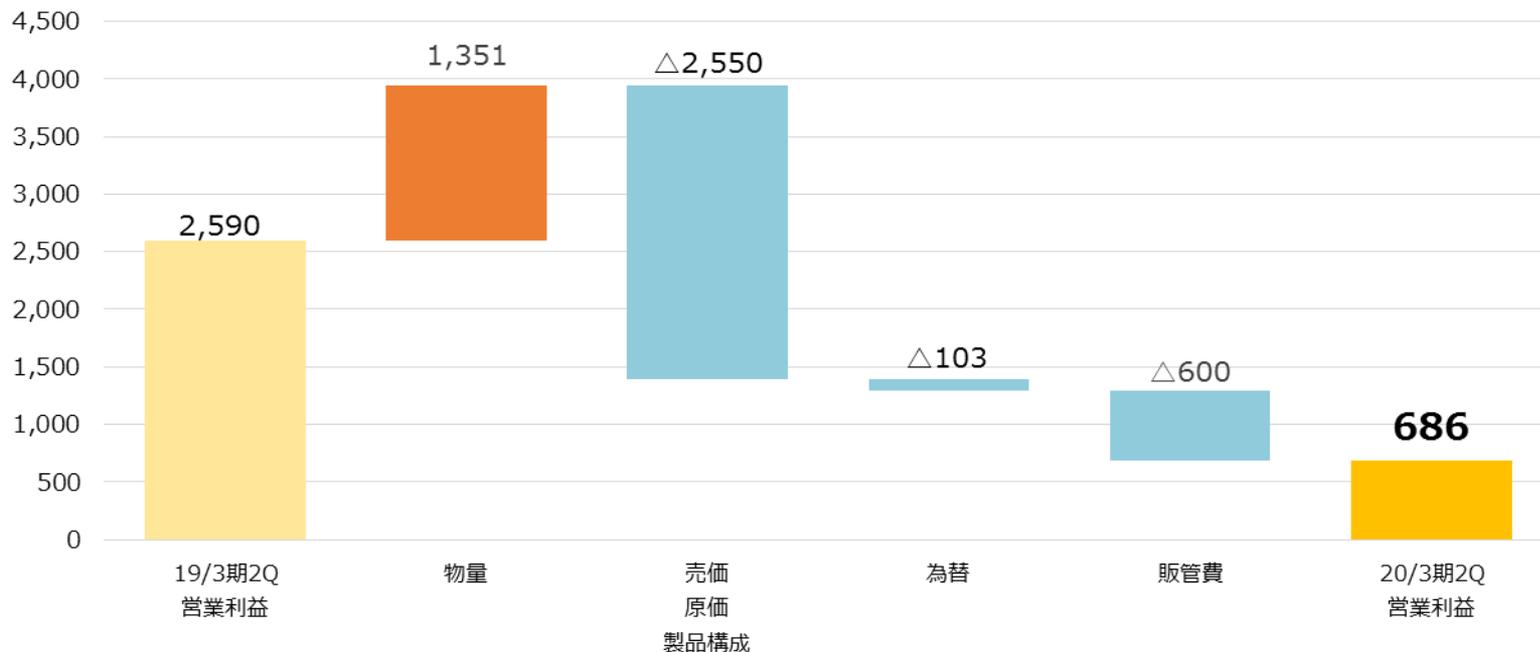
- 展示会等の販売促進費用及び工場増設に伴う減価償却費の増加と、新規2社連結した影響により600百万円増加

➤ 経常利益及び親会社株主当期純利益

- 経常利益は、前年同期比2,644百万円減少
- 当期の特別利益は、土地売却益207百万円を計上したため、229百万円（前年同期177百万円）
- 当期の特別損失は、工場移転費用483百万円を計上したため、527百万円（前年同期7百万円）
- 親会社株主当期純利益は、前年同期比2,060百万円減少

営業利益の増減分析

(単位：百万円)



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の増加により
- ・売価/原価/製品構成の変動により
- ・為替の変動により
- ・販管費の増加により

1,351百万円
△2,550百万円
△103百万円
△600百万円



686百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2019年3月期		2020年3月期 第2四半期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産の部	流動資産	手許資金	14,255	11.4%	12,712	10.0%	△ 1,542
		売上債権	42,917	34.2%	41,995	33.0%	△ 922
		たな卸資産	42,556	33.9%	44,035	34.6%	1,479
		その他	△ 1,733	△1.4%	△ 2,387	△1.9%	△ 653
		流動資産計	97,995	78.0%	96,356	75.6%	△ 1,639
	固定資産	有形固定資産	21,243	16.9%	24,269	19.1%	3,025
		無形固定資産	756	0.6%	755	0.6%	△ 1
		投資その他の資産	5,560	4.4%	6,005	4.7%	444
		固定資産計	27,561	22.0%	31,029	24.4%	3,468
	資産合計		125,557	100.0%	127,386	100.0%	1,828
負債・純資産の部	負債	仕入債務	25,090	20.0%	23,765	18.7%	△ 1,324
		有利子負債	34,889	27.8%	40,864	32.1%	5,975
		その他	7,080	5.6%	6,073	4.8%	△ 1,007
		負債計	67,060	53.4%	70,703	55.5%	3,643
	純資産	利益剰余金	45,480	36.2%	44,782	35.2%	△ 697
		評価換算差額等	1,980	1.6%	851	0.7%	△ 1,129
		その他	11,036	8.8%	11,047	8.7%	11
		純資産計	58,496	46.6%	56,682	44.5%	△ 1,814
	負債・純資産計		125,557	100.0%	127,386	100.0%	1,828

➤ 売上債権の減少

42,917百万円 → 41,995百万円
→ 売上債権回転期間は0.4日改善
(19/3月期 : 183.4日
20/3期 2Q : 183.0日)
→ 新規連結により1,478百万円増加

➤ たな卸資産の増加

42,556百万円 → 44,035百万円
→ たな卸資産回転期間は9.9日悪化
(19/3月期 : 181.9日
20/3期 2Q : 191.8日)

➤ 有利子負債の増加

34,889百万円 → 40,864百万円
→ 生産体制再編に伴う工場増設
→ 新規連結により2,025百万円増加

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	3,246	135
	減価償却費	714	974
	売上債権増減額	3,028	1,511
	たな卸資産増減額	△ 4,628	△ 958
	仕入債務増減額	2,490	△ 2,378
	その他	△ 1,310	364
	営業キャッシュフロー計	3,540	△ 350
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 1,975	△ 4,392
	その他	117	3
	投資キャッシュフロー計	△ 1,858	△ 4,389
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	157	3,819
	その他	△ 336	△ 514
	財務キャッシュフロー計	△ 178	3,304
増減額	換算差額	△ 54	△ 205
	増減額計	1,449	△ 1,640
現金及び現金同等物の期首残高		18,055	14,255
新規連結に伴う			
現金及び現金同等物の増加額		-	97
現金及び現金同等物の期末残高		19,504	12,712

▶ 固定資産の取得

→ 新工場建設及び既存工場の増設

▶ 有利子負債の増加

→ 工場増築及び生産設備資金として借入

連結主要品目別売上高推移

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	22,573	51.8%	21,483	50.8%	23,971	57.2%	2,487	11.6%
海外売上高	3,690	8.5%	3,839	9.1%	2,804	6.7%	△ 1,035	△27.0%
計	26,264	60.3%	25,323	59.9%	26,776	63.9%	1,452	5.7%
油圧ショベル等								
国内売上高	8,933	20.5%	6,318	15.0%	6,451	15.4%	133	2.1%
海外売上高	7,825	17.9%	10,162	24.0%	8,243	19.7%	△ 1,918	△18.9%
計	16,759	38.4%	16,480	39.0%	14,695	35.1%	△ 1,785	△10.8%
その他								
国内売上高	574	1.3%	438	1.0%	418	1.0%	△ 20	△4.6%
海外売上高	0	0.0%	39	0.1%	0	0.0%	△ 39	△99.3%
計	575	1.3%	478	1.1%	418	1.0%	△ 59	△12.5%
合計								
国内売上高合計	32,081	73.6%	28,240	66.8%	30,841	73.6%	2,600	9.2%
海外売上高合計	11,517	26.4%	14,042	33.2%	11,048	26.4%	△ 2,994	△21.3%
計	43,599	100.0%	42,283	100.0%	41,889	100.0%	△ 393	△0.9%

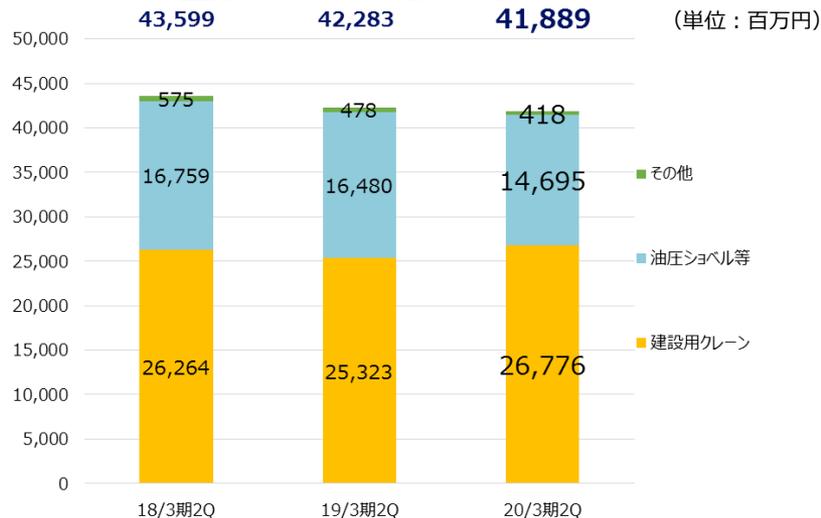
国内売上高は増加

- 建設用クレーン：小型機種を中心に販売が増加
- 油圧ショベル等：ショベルの販売は増加
ミニショベルは前年同期並み

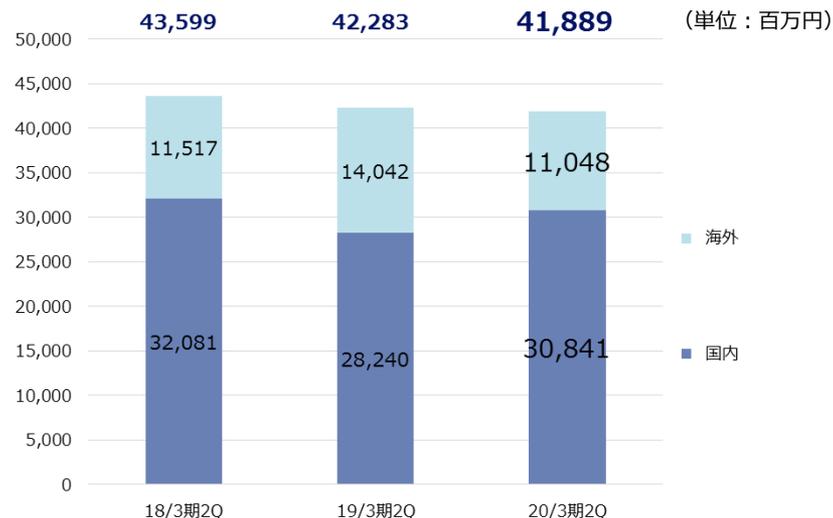
海外売上高は減少

- 建設用クレーン：アジア地域の経済低迷により、東南アジア向けラフテレーンクレーンの販売が減少
- 油圧ショベル等：中国の経済低迷により、中国国内向けショベル・ミニショベルの販売が大幅に減少

主要品目別売上高推移



国内外売上高推移



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け（4.9t～80t 7機種）
- 国外向け（13t～70t 8機種）



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け（110t～400t 5機種）
- 国外向け（130t 1機種）



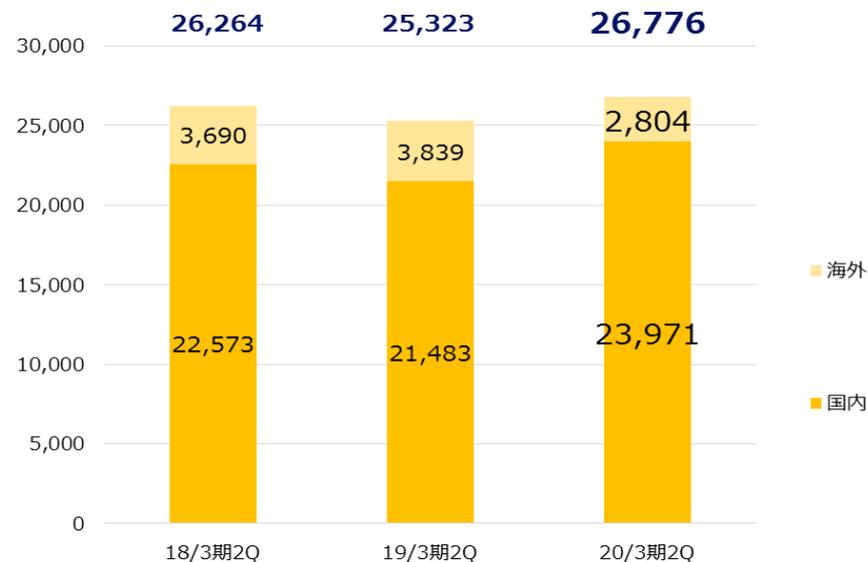
クローラクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- ラチスブームの組み合わせにより多様な現場に対応可能
- 国内向け（50t～200t 6機種）
- 国外向け（55t～300t 7機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ 構造規格の変更による製造規制に伴い、旧規格適合機種の駆け込み需要が増加し、売上高は2,487百万円の増加

➤ 海外

→ 中国経済の低迷の影響が、アジア地域全般の経済にも影響を与えたため需要が減少し、売上高は1,035百万円の減少

【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け (8t~30t 6機種)
- ・ 国外向け (8t~38t 12機種)



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け (0.9t~8t 15機種)
- ・ 国外向け (0.9t~13t 17機種)



クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- ・ 国内向け (3.7t~11t 6機種)
- ・ 国外向け (3.7t~11t 4機種)



(単位：百万円)

売上高推移



▶ 国内

→ 排ガス規制前駆け込み需要の反動減がなくなるも、工場移転等に伴う生産の遅延から、売上高は133百万円の微増

▶ 海外

→ 中国国内の需要が大幅に減少したことによりショベル・ミニショベルともに売上が減少し、加えて欧米向けのクローラキャリアは生産遅延により売上が減少し、売上高は1,918百万円の減少

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



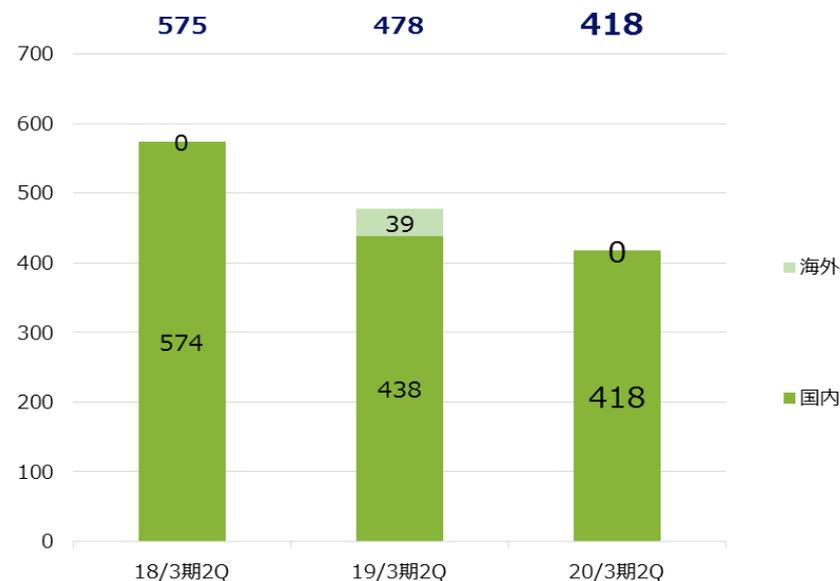
スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

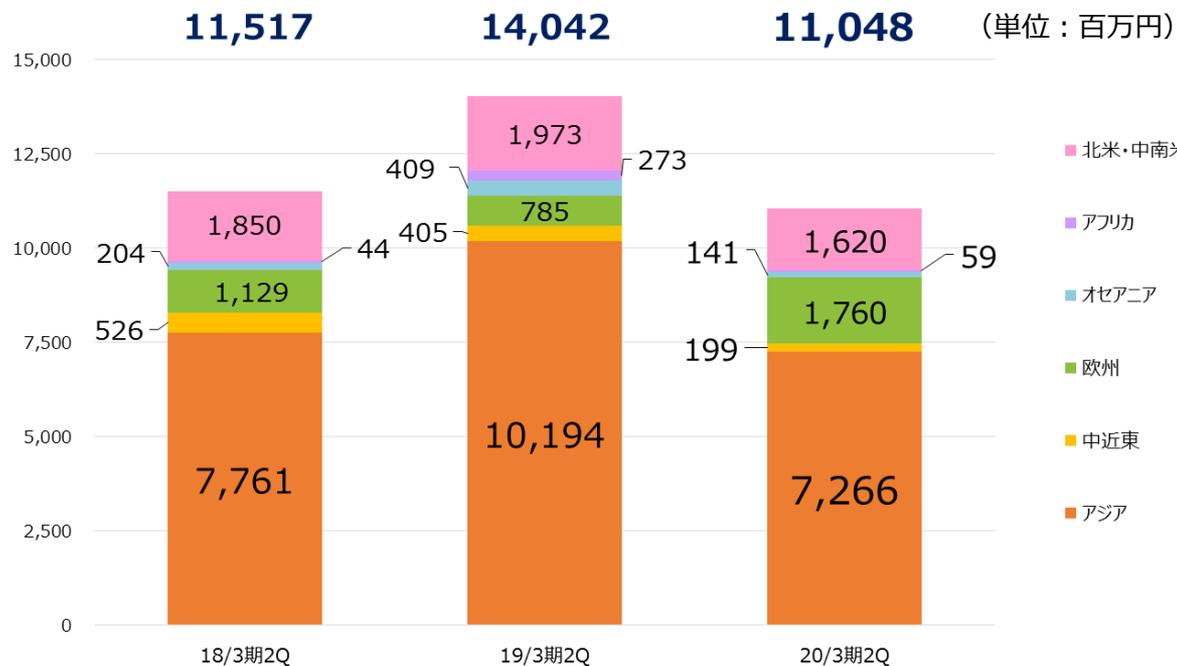
売上高推移



➤ 売上高の減少

→ 各製品とも前年同期比ほぼ横ばい
売上高は59百万円の減少

連結仕向地別売上高推移（日本除く）



▶ アジア向け販売の減少

→ 中国向けショベル・ミニショベルが中国経済の低迷及び中国メーカーの台頭により減少

▶ 欧州向け販売の増加

→ 新規2社連結に伴い売上が増加

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	7,761	67.4%	10,194	72.6%	7,266	65.8%	△ 2,928	△28.7%	17.3%
中近東	526	4.6%	405	2.9%	199	1.8%	△ 205	△50.7%	0.5%
欧州	1,129	9.8%	785	5.6%	1,760	15.9%	974	124.1%	4.2%
オセアニア	204	1.8%	409	2.9%	141	1.3%	△ 267	△65.3%	0.3%
アフリカ	44	0.4%	273	1.9%	59	0.5%	△ 214	△78.4%	0.1%
北米・中南米	1,850	16.1%	1,973	14.1%	1,620	14.7%	△ 353	△17.9%	3.9%
海外売上高合計	11,517	100.0%	14,042	100.0%	11,048	100.0%	△ 2,994	△21.3%	26.4%

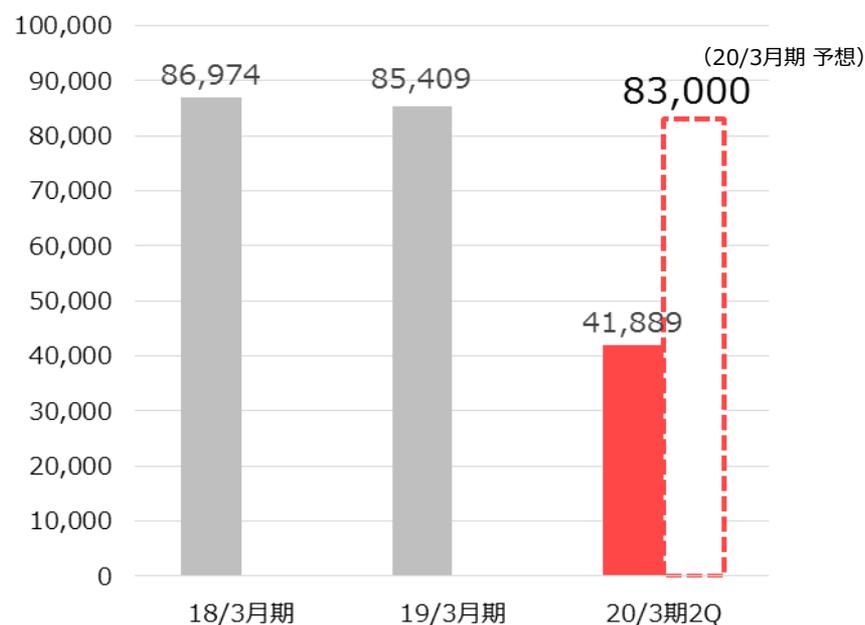
2020年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期
	業績結果	業績予想
売上高	41,889	83,000
営業利益	686	1,400
経常利益	432	1,100
親会社株主当期純利益	△ 51	400

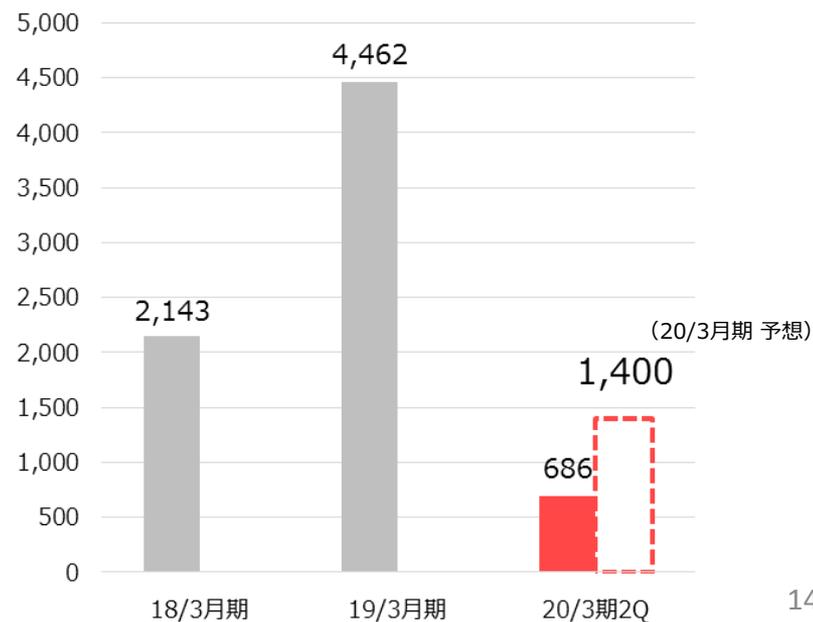
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



➤ MR-250Rf PREMIUM 新発売

業界No.1の安全性と環境に優しいラフテレーンクレーンを目指す

～2019年7月より～

- ✓ 6段スーパーブームとMRシリーズ初の空中振出式ジブ (EJIB TYPE S) を採用
- ✓ 平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジンを搭載し、低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ ABS(アンチロックブレーキシステム) やKATO セーフティビューシステムを装備し、走行安全機能を向上
- ✓ 復活の要望が高かったサーチャフックを設定、構内作業等の狭い現場で威力を発揮



➤ HD308US-7 新発売

低燃費で力強い作業性と抜群の操作性で作業効率の大幅アップを図る

～2019年8月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年(平成26年)基準に適合した新エンジンを搭載
- ✓ NETIS VE評価の燃費低減システムを採用
- ✓ 新型操作グリップにより操作力を25%低減し、グリップ形状を見直し握りやすく、長時間の作業でも楽に操作が可能
- ✓ 新型コントロールバルブ・新型ポンプの採用により、操作フィーリングに磨きをかけ、サイクルタイムが13%向上
(Pモード時HD308VS-6Aとの90°旋回捨て掘り時での比較)



➤ 群馬工場増設工事の竣工・稼動

横浜工場の移転に伴い、群馬工場の増設工事を進めておりましたが、2019年7月4日竣工し、8月より稼動を開始しました。

群馬工場は、閉鎖する横浜工場からクローラクレーン、クローラキャリア、ミニショベル、林業機械等の生産を移管し、当社最大規模の工場となります。

生産設備とともに設計部門も移管し、設計・製造部門が一体となり、迅速かつ効率的な生産・開発体制構築を進めてまいります。

✓ 群馬工場概要

所在地：群馬県太田市東新町823

工場敷地面積：215,365㎡

従業員：約400名



➤ 固定資産（工場等用地）取得

今後のさらなる事業拡大ならびに生産及び物流の効率化を図るため、茨城港常陸那珂港区に工場建設用地を取得することといたしました。

港湾区内で製造（完成品の組立作業等）を行うことで、大型建設機械の輸出の利便性が高まります。

✓ 物件概要

所在地：茨城県ひたちなか市大字長砂字渚163番70

面積：29,312.69㎡



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務人事部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail:ir-kato@kato-works.co.jp